

うとない

Vol.438 2024.11

虐待防止の取り組みについて

令和6年4月より精神保健福祉法が改正され、都道府県への虐待通報や防止の取り組みが義務化された。これまで、虐待防止について院内研修会を実施していたが今年度の取り組みをまとめてみたい。

虐待とは、身体に外傷が生じる、もしくは生じるおそれのある暴行を加えるといった身体的虐待、わいせつな行為をしたり、わいせつな行為をさせるといった性的虐待、著しい暴言や不当な差別的言動を行う心理的虐待、衰弱させるような著しい減食、職務上の義務を著しく怠ることといった放棄・放置、財産を不当に処分したり不当に財産上の利益を得るといった経済的虐待が挙げられる。今回、精神科病院における虐待通報が義務化されたことを受け、当院では以下の通報窓口の設置や虐待防止の取り組みを実施・実施予定している。

＝ 虐待対応窓口の設置と運用 ＝

- ①虐待防止マニュアルの作成
当院での虐待対応についてマニュアルを作成し各部署に配布すると同時に目の届きやすい場所に設置することで意識できるようにした。
- ②院内の相談窓口の設置
院内の掲示物に担当者を明記し周知をするとともに、院内窓口を医療相談課主任（1階に在席）國田にした。また、虐待防止のための担当者を看護部長の荘司にした。
- ③報告体制の整備
通報シートを作成し、不適切と思われる対応を他の職員が見聞きした場合に報告できるようにした。また、報告についてはシートのみならず院内メールでも通報可能とした。
- ④意見箱の設置場所の再周知
外来ホールや各病棟、さらに、職員女子更衣室にも設置に周知した。
- ⑤啓発について
院内及びナースステーション内に啓発ポスターを掲示した。

精神科病院における「虐待通報が義務化」されます

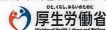


令和6年4月から精神保健福祉法が改正され、都道府県等への虐待通報が義務化されました。精神科病院における業務従事者[※]による虐待を受けたと思われる障害者を発見した際には、以下の連絡先に通報してください。業務従事者は、通報したことを理由として、解雇その他不利益な取扱いを受けないと定められています。また、業務従事者による虐待を受けた精神障害者は、その旨を都道府県に届け出すことができます。

※業務従事者とは、医師や看護師等の医療従事者だけでなく、精神科病院で勤務している全ての方を指します。

北海道保健総合振興局保健課2階21号
（吉小牧保健所）健康増進課保健係
〒053-0021 苫小牧市吉野町2丁目2番21
TEL 0144-77-9935

令和3年度障害者総合福祉推進事業委託に厚生労働省 社会・健康局 障害保健福祉部 精神・障害保健課



院内窓口：國田MHSW
（意見箱もご利用下さい）

＝ 虐待予防の取り組み ＝

- ①虐待防止の研修は必須になっているため、今年度は4月は新人研修で開催し、2月に全職員を対象に研修を実施する予定でいる。
- ②包括的暴力防止プログラム（CVPPP）の実施
患者さんの病状を理解した上で、患者さんが暴力を振るわないよう・職員が巻き込まれないように未然に防止する関わりをしていこう、というプログラム。10月・11月と実施している。
- ③アンガーマネジメント研修会の実施
9月～10月にかけて全職員を対象に4回実施した。参加者各自に自分が怒りやイライラや不満を感じやすい場面や言動等を書きだしそれに1～10までの数値化をして自分の傾向を振り返り、怒りを感じた時の対処法についてレクチャーを受けた。
- ④アサーティブ研修の実施
自分の考えや意見を率直に表現する方法や態度について相手を大切にしつつ自分も大切にすることをコミュニケーションについての研修を昨年度に引き続き今年度も実施予定。
- ⑤ストレスコーピング研修の実施
ストレスの原因に対処することでストレスを軽減することで、主に「問題の解決を図る」「認知（物事の捉え方）を変える」「ストレス反応の軽減を図る」といった3段階のストレス処理について考えていく。これも、昨年度に実施したものを今年度も予定。
- ⑥接遇研修
毎年実施している院内研修。本年は11月に3回に分けて実施予定。今回は「電話対応について」をテーマにしている。一見、虐待防止とは関係ないように思われるが、日々の接遇の心構えや態度が関わりにつながり、その対応を間違える先に医療事故やトラブルに発展していくことを考えると広い意味で虐待防止につながると考えている。
以上のような運用や防止のと取り組みを日々重ねながら、よりよい患者さんへの関わりを法人全体で取り組んでいきたい。

部署紹介

第7回 4階病棟

精神科特殊疾患病棟である4階病棟は、観察室4床、個室4床、4床室13部屋の計60床で階全体が閉鎖空間です。植苗病院では6人床だった部屋が4人床になり、一人当たりのプライベート空間が広くなり、車椅子での乗り降りもゆとりが持てるようになりました。

高齢者が多く、入院期間が長期化しそうな方、既往疾患がある方、介護を要する方が大半を占めており、日常生活の介助が中心となっています。中には、身体状態が悪く、回復されることなく息を引き取られる方もおり、家族との最期の時間を過ごすことができるよう心掛けています。

入院治療で状態が落ち着き、施設への入所を目指している方もいますが、施設の空きがなく待機期間が長引いてしまっている状態です。そのため、今ある運動機能を低下をさせないように、できることはできるだけご自身で行ってもらおうように働きかけています。家族には面会などで来院された際に面談を組ませてもらい、多職種、地域との情報共有・情報交換を密にしています。

入院している方々がその人らしい生活が送れるように、一人一人に寄り添い、看護・介護を提供していきたいと考え、チームとして取り組んでいます。

Dr. 望月の日々雑感

そろそろ冬将軍がやってこようとしている。スキーをやっていたころは早く雪が降らないかなと思っていたが、やめたらなんでこんなに雪が降るんだろうとってしまう。人間は勝手なものだと我ながら思ってしまう。北海道に来て何年になるかよくわからないが、スキーに夢中になった時期以外は冬になると鬱気味になっていく自分が見えてくるのだろうか、年を取ると出来事は自分中心に動かないと満足できなくなるのだろうか。よくわからないが…。

衆議院選挙の真っ最中だが、候補者はきっと口から出まかせで当選後の夢のような約束をばらまきまわっているだろう。なってしまうえばそんなこと言いましたかと逃げてしまうにきまっている。またまた自民党が勝つのだろうかと思うと、ムカツとするが、まあ世の中こんなものと諦めるしかないのだろう。

アメリカでは大谷選手が頑張っている。チャンピオン目指して活躍してくれるだろうと期待している。ヤンキースも強そうだからどうなるかはわからないが、頑張ってもらいたい。日本人選手が結構活躍しているのはうれしいことで活躍を期待している。

相変わらずの愚痴と期待と文句のめっちゃか文で失礼しました。



精神科医 田中 尚朗

第20回 駅探訪 ウィンチェスター・センター駅

みなさんこんにちは。今回はボストンから北へ向かうローウェル線のウィンチェスター・センター駅を取り上げたいと思います。前回紹介したウィッジミア駅から1キロほど離れている隣の駅で、ウィンチェスターの街の中心駅となります。1835年の「ボストン・アンド・ローウェル」鉄道の開通に引き続き、1938年に「ウォバーン・ゲイツ」として開業しました。当時はまだウィンチェスターの町は独立しておらず、このあたりは隣町のウォバーンの一部だったのです。

駅が中心街にあり交通量も多いため踏切の解消が望まれ、1903年には最初の立体交差が計画されましたが、長い間工事の着手には至らず、1950年代にようやく鉄道と駅の高架化が実現しました。この駅も次第に老朽化が目立つようになり、2021年1月に駅はいったん閉鎖、再建工事が始まりました。この工事も遅れに遅れ、3年以上を経た2024年9月30日(今年ですね)にようやく部分開業にこぎつけています。この3年間、中心街の住人は1キロ以上離れたウィッジミア駅まで行くか、時間のかかる並行バス路線に乗るしかなかったわけです。興味深いことに、この並行バス路線はウィンチェスターの中心街にはバス停を設置しておらず、乗客はその南端か北端の停留所から乗車することになります。

というわけで、私自身もまだ再開業後の駅は訪れていないのですが、駅の構造は2面2線、従来の石積みの土台を生かした高架駅となっています。ホームの長さは221メートルで、他の駅よりは少し短くなるようです。駅構内には跨線橋や渡し板などはないので、いったん外の道路に出て反対側ホームに行くことになります。

ウィンチェスター・センターは、アバージョーナ川の流れる静かな佇まいで、1854年建築の会衆派教会や、1887年のクィーン・アン様式の町役場、1892年のロマネスク様式の銀行など、古い建物が多く残ります。



秋の深まりを感じる季節となりました。木々の葉が色づき、紅葉が美しい景観を作り出していく様子は、自然の変化を楽しむことができるだけでなく、私たちの生活にもさまざまな影響を与えます。

まず、農作物が実り、新米の季節が到来します。新米はその香りと味わいが格別で、食卓を豊かにします。また、根菜類やキノコ類などをはじめ、旬の食材が豊富に出回るため、新しい料理に挑戦するいい機会となります。さらに、秋は文化的なイベントも多く開催されます。特に、アートや音楽のイベントは、地域の文化や伝統を感じる良い機会となります。

ただ、この時期は季節の変わり目。その上、年末に向けての準備がはじまるなど、心や体の調子を崩しやすい時でもあります。年末の忙しさを前に、心に余裕を持ち、日々の生活の中でリラックスできる時間を確保して、心身の健康を保つことも必要です。

このように、秋は自然、食文化、そして私たちの生活に多くの影響を与えます。季節の移り変わりを楽しみながら、心豊かな時間を過ごしていきたいものです。日々の小さな幸せを見つけることで、より充実した生活を送ることができるのではないのでしょうか。

(S.K)

お知らせ

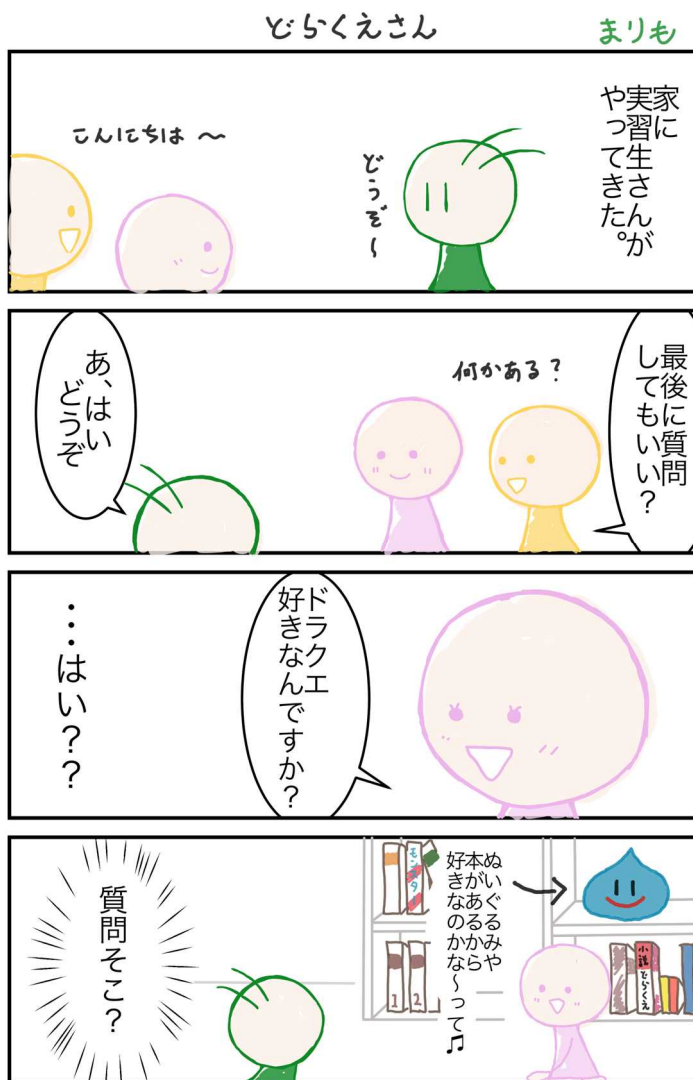
◆ 外来休診のお知らせ ◆

ウトナイ病院では2024年12月28日（土）～2025年1月5日（日）の間、外来診療が休診となります。ご利用されています皆様にはご不便をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

	12/27 金曜日	12/28 土曜日	12/29 日曜日	12/30 月曜日	12/31 火曜日	1/1 水曜日	1/2 木曜日	1/3 金曜日	1/4 土曜日	1/5 日曜日	1/6 月曜日
外来	通常 診療	休 診									通常 診療

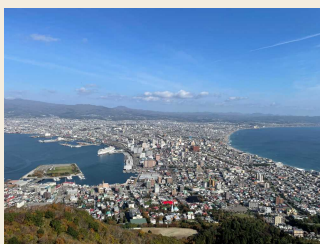
◆ 開院記念日に伴う休診のお知らせ ◆

2024年12月2日（月）は開院記念日振替休日により、外来診療が休診となります。皆様にはご不便をお掛けしますが、何卒ご理解いただきますようお願いいたします。



病む人と出会い
病む人を支え
病む人に学ぶ

発行
社会医療法人こびし広報委員会
苫小牧市ウトナイ南2丁目1番8号
TEL:0144-84-5561
<http://www.uenae-hp.or.jp/>



< 後記 >

10月末の函館山です。ちょうどロープウェイが点検中だったので、豪華客船の寄港でなかなかの人出でした。五稜郭タワーも外国人で溢れかえっておりタワーに上がるのをあきらめた程です。オーバーツーリズムを実感した次第です。（K.K）